

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

特許協力条約

REC'D 21 APR 2005

WIPO

PCT

出願人代理人

特許業務法人 湘洋内外特許事務所

様

あて名

〒 220-0004

神奈川県横浜市西区北幸二丁目 9-10
横浜HSビル7階

PCT

国際調査機関の見解書

(法施行規則第40条の2)

[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

19.4.2005

出願人又は代理人
の番類記号

SC196401

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/JP2005/000038

国際出願日

(日.月.年) 05.01.2005

優先日

(日.月.年) 06.01.2004

国際特許分類 (IPC)

I n t . C l . 7 A 6 3 F 1 3 / 0 6

出願人（氏名又は名称）

株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント

1. この見解書は次の内容を含む。

第I欄 見解の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 第IV欄 発明の単一性の欠如
 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2ヶ月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

30.03.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

宮本 昭彦

2T 9226

電話番号 03-3581-1101 内線 3265

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ 配列表
 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 書面
 コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる
 この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2005/000038

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 請求の範囲	1-14	有 無
進歩性 (IS)	請求の範囲 請求の範囲	1-14	有 無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 請求の範囲	1-14	有 無

2. 文献及び説明

文献 1 : JP 2001-321564 A (株式会社セガ) 2001.11.20

全文、全図 (ファミリーなし)

文献 2 : JP 7-281666 A (カシオ計算機株式会社) 1995.10.27

全文、全図 (ファミリーなし)

文献 3 : JP 2000-10696 A (ソニー株式会社) 2000.01.14

全文、全図 (ファミリーなし)

請求の範囲 1、3、5-8 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

上記文献 1 には、プレーヤーに対して、複数のタッチポイントへ仮想的にタッチさせる動作を促すコンピュータ画像を生成する手段と、検出手段により、所定数のタッチポイントに所定の順番で前記仮想的なタッチがされたことが検出されると、所定の処理を実行する手段とを備える情報処理システムが記載されている。
(特に【0223】～【0224】段落及び図 4-4 参照)

上記文献 2 には、撮影手段でユーザを撮影したビデオ画像の入力を受け付ける手段と、前記ビデオ画像と、コンピュータ画像とを重ねて表示装置に表示させる表示制御手段と、前記コンピュータ画像が表示されているときのビデオ画像を解析し、複数のタッチポイントのいずれかに対する仮想的なタッチを検出する手段によるユーザインターフェースが記載されている。

情報処理システムにおいて、あらゆるインターフェースを検討することは当業者がなすことであり、上記文献 2 記載のインターフェースを上記文献 1 記載の情報処理システムに適用することは当業者が容易になし得ることである。

請求の範囲 2 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

上記文献 2 は、ビデオ画像内のプレーヤーが身につけている特定色の物体が、コンピュータ画像内の複数のタッチポイントのいずれかと重なるときに、仮想的なタッチを検出するものである。(特に【0014】～【0015】段落参照)

補充欄

いざれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2. 欄の続き

請求の範囲 4 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

上記文献 1 【0069】～【0070】段落には、次にタッチすべき 2 点のタッチポイントを示すコンピュータ画像を生成し、前記 2 点のタッチポイントに対して同時に仮想的なタッチがされたことを検出するゲームが記載されており、タッチポイントに所定の順番で仮想的なタッチがされたことを検出するゲームにおけるタッチポイントを 2 点同時のものとすることは当業者が容易になし得ることである。

請求の範囲 9－14 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 3 より進歩性を有しない。

グリッド上のポイントを指示することで、ポイント間を結ぶラインを表示させる作図ソフトは例をあげるまでもなく周知のものであり、上記文献 3 記載の入力手段を従来周知の作図ソフトのインターフェースとすることは当業者が容易になし得ることである。

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

特許協力条約

REC'D 21 APR 2005

WIPO

PCT

出願人代理人

特許業務法人 湘洋内外特許事務所

あて名

〒 220-0004

神奈川県横浜市西区北幸二丁目9-10
横浜H.Sビル7階

PCT
国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

19.4.2005

出願人又は代理人
の登録記号

SC196401

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号
PCT/JP2005/000038

国際出願日

(日.月.年) 05.01.2005

優先日

(日.月.年) 06.01.2004

国際特許分類 (IPC)

I n t. C l. 7 A 63 F 13/06

出願人（氏名又は名称）

株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント

1. この見解書は次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
- 第II欄 優先権
- 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- 第IV欄 発明の単一性の欠如
- 第V欄 PCT規則43の2.1(a) (i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- 第VI欄 ある種の引用文献
- 第VII欄 國際出願の不備
- 第VIII欄 國際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2ヶ月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

30.03.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

宮本 昭彦

2T 9226

電話番号 03-3581-1101 内線 3265

第Ⅰ欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なスクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ 配列表
 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 表面
 コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれる
 この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 拡足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 請求の範囲	1-14	有 無
進歩性 (I S)	請求の範囲 請求の範囲	1-14	有 無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 請求の範囲	1-14	有 無

2. 文献及び説明

文献 1 : JP 2001-321564 A (株式会社セガ) 2001.11.20

全文、全図 (ファミリーなし)

文献 2 : JP 7-281666 A (カシオ計算機株式会社) 1995.10.27

全文、全図 (ファミリーなし)

文献 3 : JP 2000-10696 A (ソニー株式会社) 2000.01.14

全文、全図 (ファミリーなし)

請求の範囲 1、3、5-8 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

上記文献 1 には、プレーヤーに対して、複数のタッチポイントへ仮想的にタッチさせる動作を促すコンピュータ画像を生成する手段と、検出手段により、所定数のタッチポイントに所定の順番で前記仮想的なタッチがされたことが検出されると、所定の処理を実行する手段とを備える情報処理システムが記載されている。

(特に【0223】～【0224】段落及び図44参照)

上記文献 2 には、撮影手段でユーザを撮影したビデオ画像の入力を受け付ける手段と、前記ビデオ画像と、コンピュータ画像とを重ねて表示装置に表示させる表示制御手段と、前記コンピュータ画像が表示されているときのビデオ画像を解析し、複数のタッチポイントのいずれかに対する仮想的なタッチを検出する手段によるユーザインターフェースが記載されている。

情報処理システムにおいて、あらゆるインターフェースを検討することは当業者がなすことであり、上記文献 2 記載のインターフェースを上記文献 1 記載の情報処理システムに適用することは当業者が容易になし得ることである。

請求の範囲 2 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

上記文献 2 は、ビデオ画像内のプレーヤーが身につけている特定色の物体が、コンピュータ画像内の複数のタッチポイントのいずれかと重なるときに、仮想的なタッチを検出するものである。(特に【0014】～【0015】段落参照)

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2. 欄の続き

請求の範囲 4 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 1 及び文献 2 より進歩性を有しない。

上記文献 1 【0069】～【0070】段落には、次にタッチすべき 2 点のタッチポイントを示すコンピュータ画像を生成し、前記 2 点のタッチポイントに対して同時に仮想的なタッチがされたことを検出するゲームが記載されており、タッチポイントに所定の順番で仮想的なタッチがされたことを検出するゲームにおけるタッチポイントを 2 点同時のものとすることは当業者が容易になし得ることである。

請求の範囲 9—14 に記載された発明は、国際調査報告で引用された上記文献 3 より進歩性を有しない。

グリッド上のポイントを指示することで、ポイント間を結ぶラインを表示させる作図ソフトは例をあげるまでもなく周知のものであり、上記文献 3 記載の入力手段を従来周知の作図ソフトのインターフェースとすることは当業者が容易になし得ることである。